

要望演題

2025年11月14日(金) 10:10 ~ 11:10 第9会場

[R9] 要望演題 9 高齢者大腸癌の治療3

座長：塩澤 学(神奈川県立がんセンター消化器外科), 肥田 侯矢(京都大学消化管外科)

[R9-5] 大腸癌細胞におけるAngiopoietin-like protein 2発現と他疾患死の関連

堀野 大智^{1,2}, 堀口 晴紀², 門松 毅², 秋山 貴彦¹, 有馬 浩太¹, 小川 克大¹, 日吉 幸晴¹, 宮本 裕士¹, 岩槻 政晃¹, 尾池 雄一² (1.熊本大学大学院消化器外科学, 2.熊本大学大学院分子遺伝学)

【背景】

癌患者における宿主消耗(低栄養、全身性炎症、体組成変化)は、不良な予後と関連する。アンジオポエチン様因子2 (Angiopoietin-like protein 2: ANGPTL2)は組織修復やリモデリングに関わる慢性炎症のメディエーターで、複数の種類の癌の促進因子であることが報告されている。

【対象と方法】

2017年1月～12月に当院で原発巣切除を施行した大腸癌全Stageの88症例を後方視的に解析した。免疫組織化学染色により切除標本の腫瘍細胞におけるANGPTL2発現のスコアリングを行い、ANGPTL2-High / Lowの二群に分類した上で、宿主消耗バイオマーカーや臨床病理学的因子、生存との関連を解析した。

【結果】

患者背景は年齢：70歳(63-78)、男性/女性：50/38例、BMI：22.5 kg/m² (19.9-24.8)、ASA-PS 1,2/3,4：71/17例であった。ANGPTL2-High/Low：46 / 42例で、ANGPTL2-Highは左側原発 (P = 0.0410)、壁深達度の進行 (P = 0.0097)、病理病期の進行 (P = 0.0394)と有意に関連していた。ANGPTL2スコアは、全身性炎症を反映するNeutrophil-to-lymphocyte ratio (NLR) ($p = 0.4170$, $P < 0.0001$)、および宿主消耗を反映するAdvanced lung cancer inflammation index (ALI) (BMI × アルブミン値/NLR) ($p = -0.3119$, $P = 0.0031$)と有意な相関がみられた。生存との関連に関し、ANGPTL2-High症例では、ALI低値やNLR高値に起因する他疾患死が有意に多かった(ALI: $P = 0.0261$ およびNLR: $P = 0.0422$)。一方で、ANGPTL2-Low症例では差がみられなかった。

【結語】

大腸癌細胞ANGPTL2-High症例では、宿主消耗および全身性炎症に起因する他疾患死が多くみられる。